

第1回 社会を彫る子どもたち——高度経済成長期を中心に

これまではあまり注目されてこなかった高度経済成長期の教育版画について美術史、歴史学、社会学、メディア論、ジェンダー論などの人文知に根差した見識からエッセンスを抽出するとともに、議論の流れを生みだします。教育版画運動のこれまでを俯瞰し、これからのビジョンを描くために必要な基盤を形成する試みです。

※科研費基盤研究(C)「教育版画運動から探る高度経済成長期の地域と生活の変容——大田耕士旧蔵資料の調査研究(24K04189)」共同研究チーム

町村 悠香

(町田市立国際版画美術館・学芸員／成城大学グローバル研究センター・客員研究員)

笠原 良太

(実践女子大学生生活科学部・講師)

高原 太一

(成城大学グローバル研究センター・研究員)

角尾 宣信

(和光大学表現学部・准教授)ほか

第2回 版と記憶——大地のあいだを伝播していく船旅

まずは地域について教育学・教育社会学的視点から学び、現在の国際交流にふれます。その後、五所川原市と平川市のベテラン教師による語りと児童作品の紹介を行います。最後に、榎谷氏が、多くの作品が生み出された鮫村を舞台とした一人芝居『海村』より名場面をお届けします。

福島 裕敏

(弘前大学教育学部・教授)

鈴木 唯司

(公益財団法人鷹揚郷理事長)

藤田 敏幸

(元つがる市立車力小学校校長)

井上 則秋

(平川市立金田小学校教諭)

榎谷 伸夫

(八戸市公民館館長／企画事業アドバイザー)ほか

第3回 種のゆくえ——教育版画のこれまでとこれから

アーカイビング、教育的活用、および連携体制の構築をテーマとし、広く社会の問題を扱います。過去に開催された、あるいは開催中の展覧会や、県内の現状を紹介します。また、学校と社会的包摂・排除の問題に近づき、戦争と平和へと目線移してゆきます。最後に、3回分の対話を振り返りつつ、これからの教育や子どもと教師のウェルビーイングについて語り合います。

高橋 麻衣

(八戸市美術館・学芸員)

江戸 邦之

(五所川原市教育委員会社会教育課・主査)

奥脇 嵩大

(青森県立美術館・学芸員)

作間 亮哉

(那須歴史探訪館・学芸員)ほか

《教育版画 連続3回セミナー》 虹の上をとんだ船の「それから」の軌跡



全ての回において質疑応答と全体討議を行います。

詳細につきましては、

「弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイングセンターHP > お知らせ&イベント」をご覧ください。

←弘前大学へのアクセス> 弘前大学HP > アクセス・キャンパスマップ



弘前大学